



当日のシロギス仕掛け

サイズのシロギスを釣り上げて後が続く。ちなみにみなさんタックルは2本竿で、一本は置き竿にして船下狙い、もう一本は遠投して広く探るスタイルだ。「これはまずまずのサイズです」と大きく竿をしながら永澤さんが抜き上げたのは23センチのデブプリとしたいかにもおもしろいシロギス。だが、潮が動かないのでその後もポツリポツリの展開が続き、とくに釣友の塙君は苦戦。「アタっても掛からないよ」と困惑気味だ。彼は胴つき仕掛けを使っていたのだが、船長の話だと胴つき仕掛けがいい日とテンピン仕掛けがいい日があるらしい

Tackle Guide

道糸はPE1号以下、できれば0.8号を使用すると、潮切れもいのでアタリが取りやすい。リールはスピニングが基本だが、遠投できない人は小型の両軸リールでもいい。穂先が硬くアタリがあっても跳ねてしまうような場合は遊動テンピンを使うのも一手だ。

く、今日のように緩慢な潮流の場合にはテンピン仕掛けのほうが良いという。仕掛けをアクションさせやすく、ハリスが長いエサの吸い込みも良いらしい。そこで、船長からテンピン仕掛けを分けてもらおうと、塙君もようやくシロギスが釣れ始めてホッとする。

▼誘い方で釣果が変わるのもシロギス釣り



そんな中、空いていることもありリサーチをかねて船長が竿を出すとポンポン、ポンとシロギスを連続でヒットさせる。リズムカルで華麗な竿さばきは見とれるほどで、さすがの一言だ。10時になると嫌な雨も降り始めて写真撮影が厳しくなってきたため私も釣りに参加。みなさんと同じように一本は置き竿、一本はキャストする。アクションを付けてサビいてくるとプルプルとアタリ。軽く竿を立てて合わせ、小気味いい引きで20センチのシロギスが上ってきた。ようやく潮も動き始めたらしく、食いもよくなってきた。そんなとき、私の置き竿が妙な動きをしているので合わせを入れるとやけに重たい。ゴミでも引つ掛けたのかと思っただけ、時折グイグイと引くの

釣れるのは良型ぞろい

で違うようだ。それを見た船長が駆け付けてくれたが、海面に浮かび上がったのはシロギスを抱きかかえたシリヤケイカだった。スミイカだったらよかつたのにと気を取り直して再び釣りに専念する。釣れるシロギスのサイズは18〜22センチがメインでピンギスは交じらない。時折大型がヒットしてくるとシロギスとは思えないほど激しく抵抗してくるのでヒヤヒヤするほどだ。



▲浅場で釣れ始めればさらに数はのびる

みなさんもベースアップしてきてタルの中は次第にシロギスが埋め尽くされてきた。釣友の塙君もコツをつかんだのか、「ようやくダブルできましたよ」と前半に苦戦したのが嘘のようにベースアップする。やがて午後2時に沖揚がり。トップは69尾を釣った松本広二さんで、私は35尾だった。東京湾のシロギス釣りはこれから

船宿information

東京湾奥葛西橋
第二泉水
☎03・3645・2058
(詳細は巻末の情報欄参照)



黒澤 正敏船長

▶料金=シロギス乗合一人9500円。付けエサ、氷付き
▶備考=出船7時、14時沖揚がり。ほかアジへも出船。無料駐車場あり

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

周年狙える釣り物でも、季節ごとに趣は変わってくる。それが船釣りのいいところ。今回の特選レポートは、初夏を感じられる3ターゲットを紹介します。



▲東京湾のシロギスはこれからが本番

東京湾のシロギス好調

東京湾奥葛西橋発!木更津沖

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshitaka Suzuki

知得! シロギス釣りの基本

基本中の基本はいいいなエサ付け。エサのアオイソメはタラシを3センチほどにする。釣り方は、キャストしたら様ざまなアクションでメリハリをつけて誘ってから、竿をいったんステイさせて食い付く間を与えてやる。その後ゆっくりとリフトして仕掛けを浮かせてシロギスにエサの存在をアピール、アタリがあったら大きくゆっくり合わせを入れる。置き竿のほうも入れっ放しにしているアカクラゲが落ちて食い落ちて5分くらいで付けエサをチェックしよう。船長はさすがの腕前でした

テンピンが胴つきか... 当日は雨予報が出ていたためか、乗船者は私たちのほかには3人グループが1組だけ。現在第二泉水が主にシロギスのポイントとしているのは木更津沖だが、そろそろ季節的に盤洲の浅場にもシロギスが回ってきているかもしれないので試し釣りに行ってみたいかと常連の松本広二さんが提案。盤洲は木更津の手前だし、アカクラゲもいないだろうから行ってみようかと7時少し前

に出航となった。30分ほどでポイントに到着すると、「水深6メートルです。始めてください」と黒澤船長から開始の合図が出た。しかし、だれにも魚信はなく潮回りをして再チャレンジを試みてもノーヒット。黒澤船長は早々に見切りをつけて「木更津沖に行きましよう」と移動を告げる。到着した木更津沖の水深は

13メートルで、エンジン流しのスタイルでスタート。すると左舷ミヨシの松本さんが18センチのシロギスを釣り上げたのだが、一緒にアカクラゲの触腕も付いている。アカクラゲの触腕には毒があり仕掛けやエサに付くと極端にシロギスの食いが落ちるので、こまめに取り除くようにしたい。続けて左舷トモの永澤さんと右舷トモの松本功さんも同

●すずき よしかず/大型のショウサイフグのツ抜けを狙っていたら、差し歯が抜けてツ抜けどころかハ抜けになってしまいました。